

今週のビルマのニュース 2009年3月13・20日【0910・0911合併号】

今週の主なニュース：NLDなど総選挙不参加を改めて表明

・69年の禁固刑を受けて服役中の僧侶ガンピラ師（全ビルマ僧侶連盟代表）の家族6人それぞれに5年の禁固刑判決が宣告された（13日付イラワディ誌）。

・国会代行委員会（CRPP）は12日、所属する政党すべてが、2008年憲法の見直しが行われない限り2010年総選挙には参加しない意向であることを表明した。所属政党は国民民主連盟（NLD）やシャン民族民主連盟（SNLD）など5党（13日付ミジマ）。

・新首都ネピドーに新パゴダ（仏塔）が完成し、軍政トップ・タンシュエ将軍らが式典に出席した。新パゴダはヤンゴンのシュエダゴン・パゴダのレプリカで、高さはシュエダゴンより1メートル低い199メートル（11日付イラワディ誌）。

その他：サイクロン被災地で苦しい生活続く、ほか

・中国は2013年春にもシュエ田の天然ガスの輸入を開始する。輸送パイプライン建設や費用負担についてビルマ側と交渉中（10日付ブルームバーグ）。

・約14万人の死者を出したとされるサイクロン「ナルギス」。被災地の状況に関する初の独立報告書となる「サイクロン襲来その後～イラワジ・デルタからの声～」が先日出版された。調査・執筆に携わったヴィオラット・スワンニキット医師（ジョンズ・ホプキンス大学ブルームバーグ公衆衛生大学院附属公衆衛生・人権センター研究員）が来日し、11日に都内で開かれたセミナーで被災地の現状を報告した。被災地では現在も食糧や水、住居等の基礎的なニーズが満たされておらず、ビルマ当局による救援物資の横流しや横領、転売、また強制移住や強制労働など、被災者に対する人権侵害も続いている。

・ビルマの元政治囚で米国ビルマ・キャンペーン事務局長のアウンディン氏が来日し、国会議員らと会合を持った。19日には都内の報告会に出席し、獄中で4年以上過ごした自らの過酷な経験や、現在の政治囚の収容状況などについて説明した。また、ビルマの国家和解や民主化を進めるために国際社会は制裁政策と関与政策とを適切に組み合わせ、一貫した態度で軍政に政治囚の釈放と2008年憲法の見直しを働きかけるのが効果的だと考えたと述べた。

・ビルマ人権の日の13日に、ビルマ政治囚支援協会（AAPP）などが呼びかけ団体となり、2,100人以上

いる政治囚の釈放を求める署名キャンペーンが始まった。国民和解や政治改革の前進には全政治囚の釈放が不可欠だという考えに基づく。20日現在、日本など24か国160団体が賛同し、各国で署名を集めている。アウンサンスーチー氏の拘束期限が切れる5月24日までに、ビルマ国内を含めて全世界で8万8,888人の署名を集めるのが目標。最終的には国連事務総長に提出し、ビルマの政治改革に向けて事務総長自らが行動を起こすよう、要請する。

ビルマへの政府開発援助（ODA）約束状況など

・日本政府は今年度の補正予算案件としてサイクロン被災地域の復旧・復興支援のため、国際機関を通じて1,310万ドルの支援を決定。「主に水・衛生にかかわる環境悪化向上のための生活基礎システムの復旧等」に用いられるとのこと（18日、外務省）。

・「21世紀パートナーシップ促進招聘事業」の下、ビルマの外務省の中堅職員ら数名が来日した（団長は外務省国際問題研究所長）。4日には宇野治外務大臣政務官に表敬訪問した（4日、外務省）。

イベントなど

・政治囚の釈放を求める署名活動、全ビルマ学生連盟・国民民主連盟（解放地域）日本支部ら（JR新宿駅西口スバルビル付近、20日14時～）

・在日ビルマ人共同行動実行委員会アクション - 国連事務総長に対し、一刻も早くビルマを訪問し、スーチーさんを含むすべての政治囚の釈放と対話の促進を軍政に働きかけるよう要請するアピール行動（国連大学前、23～26日15～16時）

・ビルマ市民フォーラム例会「政治囚の早期釈放を！（仮題）」ビルマ政治囚支援協会（AAPP）ポーチー氏（池袋・ECOとしま8階、4月11日18時～）

もっと詳しい情報は

きょうのビルマのニュース（平日毎日更新）
<http://d.hatena.ne.jp/burmainfo>

ビルマ情報ネットワーク
<http://www.burmainfo.org>

お問い合わせ

ビルマ情報ネットワーク 秋元由紀
yuki@burmainfo.org 080-2006-0165